

のちも十分ですよ、私の娘は娘で二十九年のいのちを精一杯生きてくれた。それから九年経ちますけど、まだ娘のことは忘れられません。ふつと娘のことが思われてきます。でもこの頃、娘が先にお浄土に参っている、そのお浄土へ私も必ず参る、そして今、娑婆の縁がある間、私はここで生かさせていただく、そんな時にね、娘と声なき声の対話がやっとできるよつになりました。

「お父さん今こういふことで悩んでいるんだけどどう思う？」—そんなこと心配いらないよ、大丈夫だよ—と言ってくれると、ああそうかと。これ自問自答です、勝手に言っているんですけど、遠くへ行ってしまった娘が隣にいてくれるよいうな、そういう今、出あいをあらためてさせていただいております。

(休憩)

後半は、ハンセン病の叔父さんとの出会いを通してのお話でした。

人間解放とは、閉じこめた人と閉じこめられた人が出あって



いくこと。「ま、有縁を度すべし」ということは、私が救われることが最初。まずわが身が確かなものに救われていくということ。私が救われることによつて隣の人が救われる。一人の解脱ではなく相互の解放が浄土。私をよそに置いておいて、皆救われますよつていうのは観念。俺さえ救われればよいということではなくて、そこにとどまっていられない。同悲同苦の世界に生きていくということ、と中村先生はお話下さいました。

夏休み合同子ども会

去る八月七日、蔵本通支坊で夏休み合同子ども会が行われました。

今年も龍谷大学伝道部からようちゃん（藤本さん）とえーちゃん（安部さん）が来てくれました。大会委員長は、ドラえも



ので、みんな見たこともない良い子でした（笑）。
昼食後は食べ放題かき氷大会。そして人形劇を見て表彰式。ご門徒提供のお土産をもらって帰りました。



全種類かけてます。

んもどきのアヤシイ人でした。
四班に分かれて色んなゲームで得点を競いました。お行儀点、応援点なども加算される



4班は銀さん賞。仲間を信じてがんばりました。



お土産はシュロの葉っぱで作ったハエたたき。



さる吉くんとレオンちゃんの人形劇。



パーっ。